

令和4年度 第4回石狩市厚田区地域協議会 会議録

【日 時】 令和4年7月27日（水） 18:00～19:20

【場 所】 望来コミセン 多目的ホール

【出席者】 13人（15人中）

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	渡邊 教円	○	委員	加藤 亞弓	○	委員	角野 亮太	○
副会長	東 幸子	○	委員	鎌田 憲一	○	委員	平賀 敏和	○
委員	石田 靖子	○	委員	小山 玲子	○	委員	村本 龍一	○
委員	大内 さつき	○	委員	今 光江		委員	森田 瞳	○
委員	岡山 拓	○	委員	笹谷 清一	○	委員	八木沼 英晃	

※会長・副会長を除き、あいうえお順

企画経済部企画課 ～ 宇野課長
 厚田支所 ～ 東支所長、吉田市民福祉課長（併 厚田生涯学習課長）
 地域おこし協力隊 ～ 飯塚隊員、奥本隊員
 集落支援員 ～ 八木沼支援員
 事務局（地域振興課） ～ 高田課長、寺尾主査、渡部主査

【傍聴者】 1名

- 【次第】
1. 開会
 2. 会長挨拶
 3. 情報交換会（リラックスタイム）
 4. 協議事項
 - (1) 第9期厚田区地域協議会の運営について（継続協議9回目）
 5. 報告事項
 - (1) 厚田区地域おこり協力隊について
 6. その他
 7. 閉会

1. 開会

開会前に事務局（高田地域振興課長）より、今委員、八木沼委員の2名の欠席報告と、併せて渡邊会長より本日の協議会へ厚田区地域おこし協力隊員及び厚田区集落支援員の参加を求め参加していることを報告し、令和4年度第4回厚田区地域協議会を開会した。

2. 会長挨拶

渡邊会長より、委員の皆様へ本日参加いただいたお礼と、協議事項の中で忌憚のないご意見をお願いし挨拶に変えた。

3. 情報交換会（リラックスタイム）

岡山委員より、「厚田学園の記録会」について、飯塚隊員より「手稲駅あいくるでの写真展」と道の駅での「厚田・浜益特産品販売会」について、奥本隊員より「あつた・もうらい広場に集まろう」について、それぞれ情報提供を行った。

4. 協議事項

(1) 第9期厚田区地域協議会の運営について（継続協議9回目）

【 渡邊会長 】

それでは、協議事項に入りたいと思います。まず前回協議会の振り返りになりますが、情報発信や移住定住の「遠来」から「近説」へと視点を変えて進めて行くうえで、改めて、合併からこれまでの地域活性化を目指す厚田区の動きについて確認させていただき、「近説遠来とは」というところを共有させていただきました。また、これからの協議事項である「近説」についての取っ掛かりとしまして、「これまで厚田で暮らして楽しかったこと」などについて、皆さんから意見を伺いました。事務局で前回出された意見を取りまとめておりますので、説明をよろしく願いいたします。

【 事務局（渡部主査）】

事務局の渡部でございます。資料1についてご説明させていただきます。前回の地域協議会で、皆様からいただきました、「厚田で暮らして楽しかったこと」「良かったこと」についての意見は、資料1の裏面に記載しており、その意見をまとめたものが表面になります。

それでは表面をご覧ください。「楽しかったこと」については、スポーツフェスタやウィンターレク、お祭り、また、子供会の活動など、人が集まるイベントや子供と関わるイベントの意見が多くありました。「楽しかったこと」を話された委員の皆様からは、赤の囲みになりますが、「イベントが少なくなり寂しくなった」「人が集まらない」「子供が少なくなった」「昔はできたことが、今は人が少なくなり出来ない」など話されていました。

右側の「良かったこと」については、「毎日が穏やかに暮らせること」や、「涼しく過ごしやすい」「助けられたり助けたりの関係性が良い」などの意見がありました。

今回のいただきました意見から、「楽しかったこと」については、「イベント」「子供」、「良かったこと」については、「自然」「気候」「共助」をキーワードとして、事務局として整理をさせていただきました。私からは以上です。

【 渡邊会長 】

只今、事務局から説明がありました。資料1の裏面をちょっと見ていただければと思いますが、地元の方と言いますか、もともと厚田生まれの方と、厚田の方に来られた方、移住された方の二つの視点があるのかなと感じています。地元の方は、厚田で育って厚田暮らしが長いわけですから、お祭りだったり子供会の行事だったり、人が集まるイベントで楽しかったなどの意見がある中で、人が少なくなった、子供がいなくなったなど、どちらかという人口減少、少子高齢化で、楽しいイベントがなくなって寂しさを感じているのだなと思いました。また、移住されてきた方の意見としては、「良かったこと」に対する意見が多く出されており、地元の方だと当たり前だと思っていることが、厚田ならではの良さと感じているのだなと感じました。地元の方と移住された方では、厚田の良さや魅力、感じ方が違うのだなと

改めて実感したところです。

「楽しかったこと」からは、「イベント」「子供」、「良かったこと」からは、「自然」「気候」「共助」がキーワードということで事務局から説明がありましたが、このキーワードは、近況がより実感できる要素に繋がっていくのじやないかなと思っています。これまで第9期のテーマ・方向性を探るということで、議論を重ねてきましたが、今日はキーワードにある「子供」について、子供・教育に焦点を当てて、皆様から意見をいただけたらなと思っています。前にも移住定住をテーマとした時にも、子育て世代に、ぜひ厚田に来ていただいて、厚田学園に通って欲しいという意見も、多数ありましたので。

それでは、前段に岡山委員から厚田学園の特色ある取り組みについて、よろしく願いいたします。

【岡山委員】

それでは、別添資料をご覧ください。先にちょっとお断りしておきますが、お配りしているこの資料につきましては、実は本協議会のために作成したものというよりも、もう既に作ってあったものであります。何のためにこれを作っていたかと言いますと、私がここに来てから作ったのですが、義務教育学校はこれからどんどん増えるだろうというか、もう増えているのですが、それで視察に来ることがかなり多くなるだろうということを予想してました。そうしたら案の定、7月は既に3件の視察を受け入れました。また、8月も前半だけでも2件を予定しています。コロナ禍でこれまで我慢していた人たちが一気に押し寄せてくるというような感じで、視察を受け入れ対応しています。ですから、全く厚田のこと知らない方へお伝えする内容となっておりますので、その辺をちょっと踏まえていただけたらなと思います。ですから2ページのこれまでの歩みについては、委員の皆様はご承知されていることだろうと思いますので飛ばしたいと思います。

3ページの特色ある教育活動ということですが、これもほぼほぼご承知の事が多いのかなと思います。ただ、本校は義務教育学校ということで、普通の学校では行えないような教育活動・教育課程を編成することが出来ます。例えばですが、学年ブロック制で組むことが出来るということで、一年生から四年生まで低ブロック、それから5・6・7年生は中ブロック、そして8・9年生は高ブロックとして、それをホップ・ステップ・ジャンプの形で、これは中1ギャップと言われるものの解消もそうですし、発達段階に応じた教育課程の実施にも寄与していますし、あと、小中の壁を無くしていくということも凄く大きな効力を発揮しています。また、各学年そのブロックの最上級生が、4年生、7年生、9年生ですが、要するにリーダーの育成にも寄与するというふうに考えています。あと、授業においては、これは他の学校ではあまりやっていないと思いますが、相互乗り入れ授業と言いまして、中学校の先生が小6の教科担任をやったり、それから小学校の音楽の先生と、5、6年生の担任の先生が中学校の音楽を担当したり、要するに、教科の専門性を活かした授業配置をしています。

また、3ページの右下ですが、総合的な学習の時間の取り組みをまとめた一覧表になりますが、このような活動も行うことで、それが4ページの(2)番の厚田学ですが、ふるさと厚田への深い理解と厚田愛の醸成を起しているところですけども、結局この厚田学を通して、子供達の郷土愛を醸成させる事はもちろんのことですけど、自分自身のキャリアと言いますか、その将来を見据えるそういうものの考え方が出来るように、そんな教育活動を目指しております。

また、いろんな方々との交流を通して、表現力、コミュニケーション力、こちらを向上させるというようなことを目指しております。

今回の説明の目玉になりますが、厚田コミュニティ・スクールの活動です。概要は(3)の①番に書いてますが、②番に具体的な取り組みとして、厚田コミュニティ・スクールは大きく三つに構成されています。

地域コーディネイト部では、挨拶、CS挨拶運動ですとか、こちらもすでに2回やっけていて、来ていただいている方もたくさんいらっしゃいます。あとCS防災訓練ですが、去年も実施しており、今年も実施します。あと今年度、郷土愛の醸成ということで、道の駅のテナントとのコラボということで、実施しています。

学習支援部では、厚学サポート隊の募集ですとか、あと職業体験学習の仲介。それから、文化祭の取り組みの支援とか、あと、これから予定していますソクラテスマーケティングなど、そのようなものの企画、調整を担っていただい

ります。

広報部会では、広報紙CS便りの発行はもとより、今年度は、SNSを活用した情報発信をするということで、取り組んでいただいているところです。そういったことを通しながら、学校運営の下支えをしていただくといえますか、そういう位置づけで、コミュニティ・スクールの取り組みを進めていただいているということでございます。

その他の幼保小中高大の連携ですとか、地域貢献の取り組みということで5ページの下の方に書いていますけども、このようなこともさせていただいていることで紹介させていただきました。今ちょうど、竹灯籠づくりというのを、夏休み前にやっています、灯籠流しの時に竹灯籠を設置して、明るい時には竹灯籠の子供たちが描いた絵を楽しむことができ、多少薄暗くなってくると、ろうそくの明かりの竹灯籠も、楽しんでいただけるといったそんな企画であります。

6ページにこれからの厚田学園ということで書いてますが、厚田学園も教育の場でございますので、バランスのいい教育活動を進めたいということで書かせていただいたところです。あと出来るだけ写真をいっぱいと思ひまして、いろんな写真を配置させていただきました。ぜひご覧になっていただければと思います。雑駁な説明ですが以上です。

【 渡邊会長 】

ありがとうございます。今、岡山委員から説明がありまして、厚田ならではの特色のある取り組みについてご説明を受けましたが、何か委員の皆さんから質問とかありませんか。

【 東副会長 】

厚田CSですが、結構メディアとかにも取り上げられたと思うのですが、道内でもそういう取り組みをこれから行なうみたいな学校は何校くらいあるのでしょうか。

【 岡山委員 】

コミュニティ・スクールは、もう既にいろんな学校で取り組んでいます。いろんな形があるので、この形っていう決まりはないのですが、厚田学園は、厚田CSの独自のスタイルでやっています。また、江別型コミュニティ・スクールですとか、これも江別市内、全部同じような形をとっているのですが、地域によって取り組み方は違うのですが、コミュニティ・スクールに取り組んでいる学校はかなり増えていると思います。

【 渡邊会長 】

ありがとうございます。東副会長からもコミュニティ・スクールの話がありましたが、実は私が今、会長をやっています、今日来る前にちょうど厚田CS通信が回覧で届きまして、それを見てから来ましたけど、本当に地域のみならず厚田学園を支えながら、頑張ってくれてるなと思っています。厚田CSでは、厚田学園と地域とのハブ、地域皆様の協力を頂きながら、子供の夢を地域で支え、叶え、学園をサポートしていくところだと思っています。今後は特色ある教育活動を通じて、学力の向上はもとより、この学園に魅力を感じ、子供たちが増えていく、そして、賑わって活気のあるまちになることが大事なのかなと思っています。厚田学園はそんな要素を、実は兼ね備えている義務教育学校だと思っています。

厚田学園の将来も、実は近況の具現化も多く地域住民が何らかの形で関わらなければ、始まらないと思っています。そこで今日は、地域の宝である子供達に、地域の人たちがどのような活動を通して、関わる事ができるのか、厚田ならではの取り組みとして、アイデアや地域として「どんなふうに関われるか」「どんなことを子供たちにしてあげるか」「するべきか」ということで、皆さんの意見を聞かせていただき、その意見を厚田CSに持っていったらと思っています。

東副会長から順にお願いします。

【 東副会長 】

HBCの日曜日のラジオでONE-Jという番組があるのですが、農作業しながら聞いているのですが、その中で、どこかの本州の村で、そこにはまだ高校がある村なのですが、高校生のやりたいという希望を全力で大人が叶えてあげる取り組みをされていて、そうすることで地域愛が生まれて、一回外へ出ても戻ってくるみたいなことを紹介されてまして、荒唐無稽な話なのですが、9年生になったら絶対に願いを叶えられるみたいな、何か芸能人に会いたいか、仮面ライダーになりたいとか空を飛ばしたいとか何でもいいのですが、そうすると4年生ぐらいで、あと5年で俺の願いが叶うみたいな、そういう何か楽しみが目に見える楽しみがあるって凄くいいなと思って、クラウドファンディングでも何でもいいのですが、大人達がお金を出して、その子供達の願いを絶対叶えてあげるみたいな、そういう取り組みがあったら面白いんじゃないかなって、思っていました。

【 小山委員 】

昨年でしたが今高校生になった方たちが、自分たちが企画したバスツアーがありましたが、最後は感極まってお見送りの時に泣いてましたが、担任の先生が勉強だよって言われてたのですが、今日ぐらい余韻を残してやってくださいと思わず言ってしまいました。やっぱりそういうことを若いころに体験することが、今後、大きくなって、頑張ったことは覚えていると思います。高校に行くと、人数が多くて物怖じしちゃうとか、その子の性格もあるのでしょうか、厚田学園で色々なことを体験して、地域の方と一緒に何かをやってきたという何か自分の宝物みたいな体験を持っていれば、きつくくじけないで頑張れるんじゃないかなと思っています。ですから、具体的には何も見つからないのですけれど、そういう子供たちが何か自発的に何かをやりたい時には、お手伝い出来ればと思っています。具体的にはちょっとありませんが、手伝えるところは協力していきたいなと思っています。

【 加藤委員 】

厚田学園で今上半期の反省をしているところで、先生方と話題になっていたのですが、やっぱりイベントごとが、学校でも地域でもぐっと減ってしまっていて、言葉を選ばないで言うと面白くない1年という感じが凄くあるというような話をしていました。最初はコロナだから仕方ないという気持ちでいたのですが、それも3年経つと、それがこう当たり前になってきてしまっている部分もあったり、我慢が限界を迎えている部分もあったりして、何かこうもうちょっと見通しを持って、コロナがこれぐらい減ったらこういうことを復活させていきたいとか、そろそろ考えていかないと、このままだと無くなったままになるんじゃないかなという不安が、漠然とあります。私がここに赴任してきた時は、凄い町内のイベントも学校の行事もいっぱいあったので、何かあの頃に、また少しずつでも戻していけたらという気持ちがあります。学校としても地域の一員としても凄く感じています。

あと、まち探検とかで小さい子供たちを連れて、いろんなお店を見学させてもらうのですが、お店の人が子供たちを誰の子かわからないとおっしゃって、子供と地域の方との関りが薄くなってきてしまってるのかなと、凄く感じます。

この間の研修でも、どこの町の話か忘れちゃったのですが、18歳に成人が下がったこともあって、子供の模擬選挙みたいなをやっている町とか、子供の1日町長みたいなやってる町が、ちらほら増えてきているという話を聞きました。子供選挙は高校生の話だったのですが、実際に選挙運動もして、予算も付けてあげて、1年任期でその地域の特産を実際に考えると、そういう活動をしているみたいで、政治的な興味も沸くし、町内とか地域の人たちみんなそういう子供たちと関わり、実際に投票とかもして、子供は自分たちの行動が大人をこう動かしているという達成感もあるし、大人も子供の活躍を見守ることができるので、こういう取り組みは凄く素敵だなと思って聞いてました。規模も全然違うので難しいかなと思いますが、何かそういう取り組みが出来たらと漠然に思っています。

【 鎌田委員 】

私は、愛着心、郷土愛の醸成ということでちょっと話をしたいと思いますが、以前は、漁船に乗って、海から厚田を見るとか、水田に田植えをして、収穫まで実施するとか、何かそういう様な厚田の一次産業に関わることをやっていたと思うのですが、最近あまり聞かないなど。道の駅のテナントとのコラボとかも凄くいい事だと思うのですが

やっぱり厚田は農業・漁業の一次産業との関りを持っていただければと思っています。

先ほど説明していただいた資料の中にスキー練習場の整備と書かれてますが、以前は小さいスキー場でしたけども、簡単なリフトもついて子供たちが滑っていて、その影響もあってか、高校では厚田の子供たちはみんなスキー学習では大体Aをとっていたというようなことも聞いていました。このスキーの練習場の整備とはどの程度なのかわかりませんが、頑張っ欲しいと思います。

【 村本委員 】

高校に上がった時一番思ったのは、バス一本で通える距離なのに学校の人数が100倍以上になり、クラスも10人もいなかったのですが、40、50人と増えて、やれる活動の幅もかなり広がって、石狩高校だったのですが、都会って凄いなと思うことも多々ありました。やっぱり、人数が少なくても活動の濃さっていうのか、人数が少なくても高校とかでやってた活動より、厚田でやってた活動の方が楽しいなと思えるような活動を増やしていければいいのかなと思います。

【 森田委員 】

具体的にどのような活動があればというのは、ちょっと思い付かないのですが、私の実家は十勝の鹿追町っていうところで、小学校と中学校の頃をちょっと思い出したのですが、小学校の時は小さい学校で、地域の人たちと関わるようなことも少しあって、中学校になるとちょっと大きな学校になったので、地域の方と関わるのが、全然ありませんでした。今、厚田学園に携わらせていただいて、地域の方々と一緒にいろんなことをやられていることが、凄いな私のと比べてたくさんあるなと感じています。だからと言って、その私の思い出がないかって言ったらそうではなくて、少しではあったのですが、小学校の時に地域の方々と交流のことが凄く思い出に残っていて、いろいろやっていただけたなと、今でも思い出すことが出来るので、厚田でこういういろいろな活動というのは、必ず子供たちの心に残って大人になった時に、厚田を誇りに思えるようになるなといつも感じています。なので、このコミュニティ・スクールのソクラテスミーティングや防災訓練は、学習も出来て、さらに地域の方々と交流も出来るこういう機会がどんどん長く続けていけたらいいなと思います。

【 角野委員 】

次男の話ですが、来年一年生になりますが、同級生が女の子一人しかいない状況です。うちの兄弟の方が多いのですが、やっぱり二人なのでいろいろと考えているのですが、これから9年間ずっと二人だと思ったら少し寂しく感じています。修学旅行も二人だし、宿泊学習も二人だし、何でも多分二人でやっていくと思うので、それじゃちょっと寂しいなと思っていて、それでちょっといいなと思ったのが、ホームステイです。例えば夏の期間だけでも、まちの子供をホームステイさせることです。子供と一緒に居ていつも思うのが、僕たち大人の方が刺激を受けていて、子供たちのエネルギーなところは凄いと感じています。同世代の子供たちが喧嘩をすることもありますが、それはそれでいいことだと思うし、今そういうことも出来ないような人数なので、他のまちの子供を受け入れて、厚田の子供たちに刺激を与えて、来てくれた子たちにも厚田を知って、厚田を好きになって貰えて、ちょっと小さな種を蒔いておいて、将来、何も思い出のない土地よりは、厚田を選んでくれる可能性が1パーセントぐらい増えるかなと思っていて、一石二鳥を狙った取り組みとして、ホームステイが良いと思っています。いろいろな障害もあると思いますが、僕はいつでも受け入れ可能です。

【 飯塚隊員 】

角野さんの山村留学的な事が凄いなと思っていて、個人的にというか、個人的ではないのですが、大学生を連れてきて、厚田に関わりしろを作りたいなと思って、ずっと2年3年4年と来てからずっと考えてました。それを実際に形として動いていて、4月に厚田ツアーをして、それをきっかけに朝市で今、北大生の女の子一人が働いてたりとかして、何かさっきの子供から学ぶことがあるっていうのと、ちょっと、似てて違うような感じなのですが、大学生が行くことで、何か僕が見つけられなかったような関わりしろというか、僕も知らない人と仲良くなるとか、い

ろいろと勝手に輪を広げてくれています。首都圏にはたくさんの子供がいるので、地方に来てもらってお互いの学びになるのは凄いいい事だし、やってみると意外と知らない良さが見つかったりするので、そんな取り組みは良いなと思っています。

あと自分に厚田学園で何が出来るかなと考えていたのですが、先ほど話した大学生を連れてきているので、ソクラテスマーケティングほどじゃないのですが、その大学生から話を聞く機会などあれば、凄いいいかなと思っています。僕自身、大学は得体の知れないものと思ったので、中学生の時とかに、大学って何なんだろうみたいなことや、高校になったら急に学部選ばなきゃいけないみたいな、選ばなくていい大学もあると思いますが、選ばなきゃいけないみたいな時に結構大変だったので、何かそういうのを聞ける機会があったらと思っています。

【奥本隊員】

子供について2点ありまして、勉強と部活の話になりますが、一点目の勉強は、前々回ぐらいに発表させていただいた移住の話にもなりますが、本やネットを見てよく出てくるのが、子供の教育で田舎は、自然がいっぱいで楽しいから移住したいと。ただ現実的に、中学になると勉強をさせたいので都会のほうへやっぱり戻ってしまうこととなります。そこで思ったのが、今コロナ禍でオンライン学習塾がどんどん充実してきたと思いますが、ただ実際に、対面じゃないからモチベーション・やる気が続かないのかなとそんな気がして。私は先生の免許を持っていませんが、例えばオンラインの塾を受けていて、そこで何か分からない問題だとか教えてくれと言われたら、中学まででしたら教えられるのじゃないかと思っていて、そういうオンライン学習塾と実際に教える塾の先生じゃないですけど、教える何か場があれば、自分も協力出来ることがあるのじゃないかなと、最近、思っているのが一点です。

あと部活ですが、他の地域だと思いますけど、先生が部活をしているのじゃなくて、地域の人が部活を教えていることを目にしました。そういうのも非常にいいのじゃないかなと思っています。地域の人色んな特技、例えば私はテニスをやっていたのですが、テニスだったら教えられると思いますし、チーム競技は人数が必要なのでなかなか難しいかもしれないですけど、野球のキャッチボールなら出来るかもしれないです。今は卓球だとかちょっと絞られた部活しかやっていないと聞いてますので、子供がこんなことをやりたいって言った時に、それだったらこの人が昔やってたはずだからとか、強くなくても下手でもいいと思うので、何かそういう機会を創ってあげると、地域の人も溶け込みやすいと思いますが、コロナだからちょっとなかなか難しいのかもしれませんが、そういうのを徐々に初めて行くと、地域との繋がりも増えていくのじゃないかなと思っています。

【八木沼支援員】

私も厚田で育っているので、自分の小中の時のこととか思い返していたのですが、ちょっと厚田からは外れちゃうかもしれないのですが、小中学校の時に行ったリーダー研修みたいなものに参加したのですが、夏休みにキャンプに全然知らない子と一緒に集まって寝泊まりをして、何か体験をするようなことだったのですが、個人的には、何回か機会がありまして、それって大人になったときに、結構役に立つとか知らない人と会うってということとか、意見の違う子たちがいっぱいいる中で、どう意見をまとめたりバランスをとったりと、子供ながらに体験していたなと大人になってから実は思っていました。あつ旅の話にもありましたけど、体験や体感したことって本当に、大人になってからも心に残るものだなと思っていますので、だからやっぱり子供の時に、実体験として何かできることを、それも多分させてもらうのではなく、自分が主体的に何かに取り組んでいく体験がとても大事なかなと思っています。それと、本当に、皆さんから出てましたが、子供から学ぶこと、大人が今何をすればいいかっていうところで話してますけど、実はたぶん、何かしてあげることもあるし、子供から何か大人が教えてもらうこともあり、お互いに学べる部分があるのじゃないかなと思っていて、先ほどの資料1にちょっと絡むのですが、地域で運動会があったり、学校の運動会でお父さんやお母さんのPTAリレーで走ったりすると、子供ながらに、あそこの家の誰々君のお父さんは走るの凄いい早いとか、子供時代に大人の本気を間近で見て体験することも物凄く大事だなと思っています。何かを察することや一緒に何かをするときの大人の本気度がとっても大事で、それが将来の子供のための種を蒔くことになるのじゃないかなと思っています。全然具体的ではないのですが、考え方とかそういう部分が大事ではと思っています。

【 岡山委員 】

こちらに来てずっと考えていることが一つありまして、少人数とは弱みですかという話です。僕は弱みだと思っ
ていません。強みをもたくさんあると思っていて、ストロングポイントだと思っ
ていることもたくさんあって、それこそ加藤先生も普段からされていること
で、うちの先生方もされているのですが、本当に一人一人に濃厚接触とい
いますか、子供との関わりは猛烈です。こないだの陸上記録会は、子供た
ちの運動量は半端ないです。なぜかという、全員が全種目出てます。こ
ういう学校は、多分、まず存在しないと思います。都会の学校に行ったら、
子供達の運動量は、本当に少ないです。一人の運動量はめちゃくちゃ少
ないです。待ってる時間の方が長いです。ですから、子供たちはそう
いう意味では幸せな部分もたくさんありますし、それから町場では学べ
ないようなこともたくさんあります。本校の今年の年間計画で唯一です
が、水泳学習だけ出来てませんが、それ以外全部やっています。水泳学
習は、市教委からやりませんとなっていますので、ですから今年はや
っていません。でも来年度は、やりたいて教育長は言っていますので、
多分出来ると思います。いよいよ新築のプールがお披露目です。あそこ
にはまだ水を張ってないのじゃないかなと思います。こないだのニュー
スで、久しぶりにプールに水を張って水泳をしたら、子供がケガをし
たとありました。要するに劣化して、そこでケガをしたということなので、
私が身をもって点検をしたいと思っています。

ただ良い事ばかりかという、やっぱりウイークポイントもあります。それは何かと言
いますと、例えば、道徳の時間です。本当でしたら道徳とは、いろん
な人の考えを聞いたり一緒に話をしたりして、いろんな考え方や価値
観を知る凄い大事な機会なのですが、今、9年生は二人ですが、二人
でいつも話をしていますので、道徳の時間に二人に話をと言
っても、普段から話をしていますので、もっと多様な考えを受けられ
るようなことが出来ないだろうかと、なかなか難しいのですが、この
前、加藤先生のクラスでは、江別の北光小学校ですが、やっぱり小規
模の学校なのですが、オンラインで、国語の授業をしてました。こんな
事がどんどん出来ればいいなと思っていますところ。

今皆さんの話を聞いて、学校教育と社会教育の二つの内容が出てきたか
なと思います。そこはちょっと整理しながら、今後進められればい
いなと思ってましたけど、ただ学校教育の中でも、出来そうなことは
あるなと思いました。例えば、田植えの話とか、今ちょっと知床の遊
覧船の事故の関係で船に乗せるのも怖いのですが、船から厚田を見
る体験も、ぜひして見たいと思いました。ルーランをもう一回見て
みたいと思ったりしています。何か上手くいけばいいなと感じて
ました。繰り返しになりますけども、少ない事が強みになるように
と思っています。

【 笹谷委員 】

校長先生が的確すぎてあれなのですが、私としては親としてですが、
コミュニケーション能力が、やっぱり不安なところ。自分が大人
数の学校で育ってききましたので、少々不安があります。いい関係
とか、会話能力とかじゃなくて、泥臭い人間関係と言いますか、そ
ういうのはやっぱり、その環境の中で出来ると思うので、それが
凄く不安なところなので、これを何とかすること出来る体験だとか
あればいいなと感じています。少人数ならではの体験というのは
本当にしていると思います。こんな事してるんだなと感心するこ
とが多々ありますので、先ほど話されていたストロングポイント
を更に活かしていければと凄く感じています。

あとは今この時代、例えばコロナ世代だと言われる世代ですが、
コロナだから出来ない行事ではなく、もう絶対ぶれることがなく、
絶対に出来る行事を子供たちのために、瞬発力のある行事があ
ればと凄く感じています。コロナに関係なく、コロナに負けない
行事があればいいなと思っています。

【 石田委員 】

仕事で子ども教室にいるのですが、厚田学園の子、八幡小の子、
生振小の子が来ているのですが、その中で、厚田学園の事とか
話をしたいのですが、行った事がないので、何かイベント事
なのか、親子同士で行けるような機会があればいいなと思
いました。

聚富小中学校の閉校の時に離れることになって泣いた子がいた
のですが、こども教室で会えて、またそこで仲良く遊べる場
所が出来てよかったなと思っています。楽しんでもらえるよ
うに、いろいろとイベント事をちょっと考えながらや
っているのですが、コロナもあり、なかなか出来ていない
状況ですが、卒業した子供たちが、たまに遊びに来

たりして、子供と遊んでくれて、昔はこうだったとか、ああだったとかという話を聞いて、あの頃のことを覚えてくれているし、思い出して来てくれるのかなと思っています。

【 大内委員 】

毎度の意見発表ですが、人前でこう話すと頭が真っ白になってしまうので、よくしゃべれないのですが、皆さんのいろんな意見をそうだなと思いつつ聞いてました。自分が出来ることがあれば、率先して協力というか、参加したいなと思って聞いてました。

【 平賀委員 】

私も同様でした。ただ一つだけ、朝市で燻製売っているのですが、朝市の入り口の看板を背に写真を撮っている方が多いですし、八幡二の前の朝市の看板が壊れたのは自分も知っていたのですが、気が付いたら、厚田学園の子供たちが、魚の絵を書いた看板を作ってくれて、結構それを見て朝市に来たという方も何人かいました。そういうのを聞くと、子供たちも地域に貢献しているのだなと思いつつ、朝市でいつも燻製を売っています。

【 渡邊会長 】

皆さん、いろいろご意見ありがとうございます。確かにコロナ渦でいろんな行事やイベントが減って行って、どの学年も、高校生もだと思えますが、寂しいというかそんな時代ですけど、どうしたら子供たちに、良い思い出を作っておくことが、地域も親も全部含めてですけども、出来るかということが凄く大事な事だと思います。やっぱり厚田で、厚田の学校に通って、こんな良い思い出があって、こんなこと出来て、こんなことを大人たちがしてくれたということをもっともっと子供たちのために、考えていかなければいけないんだろうと思います。ぜひ、これは厚田CSも含めて、皆で持ち帰りながら、子供たちのために、今出来ることということで、引き続き考えていただければと思います。子供たちは宝だと、ファンは宝だと誰かも言ってましたけど、子供たちは地域の宝ですから、本当にみんなで考えながら、ぜひ、厚田学園の応援団になっていただきたいと思います。貴重なご意見、本当にありがとうございました。

それでは、本日の協議事項については、これで終わりたいと思います。

5. 報告事項

(1) 厚田区地域おこし協力隊について

事務局（寺尾主査）より報告

・地域おこし協力隊に1名の応募があり、居住要件及び書類には問題が無く、7月29日（金）に面接を行う旨報告し、結果については、次回協議会で報告する。

6. その他

全体を通して他に委員から質問等無く、次回の日程を8月31日（水）18時から厚田総合センターで開催することで了承。

7. 閉会

19時20分に閉会。

令和4年8月22日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会
会長 渡邊 教円